



千代見草調富貴組

ちよみくさしらべのあまのこ



舎木街 菜調并其儀之條

ひまや
えん
きのえ
むすね

發兌

什題圖

へ 13
3799

Kusa: (No. 075)
Chiyomi Gusa Vo



天保
甲午
孟春

仙果作
園安画

上
冊

千代見州

調富貴組

柳亭種彦校

門へ13
號3799
巻



おむち橋

山本屋板

千代見草調富貴組

序やう九倒やう

趣向由多下給る表紙

○この冊子の口紙を表紙に引寄せて四冊のついでに趣向由多下給る表紙裏ゆも男女の人物あり一かど表紙をより画せし心なりなと十月半香蝶樓のちとちのせんときつとせりし後これれは作者仙果の意ありたり

○淨瑠璃の発端ハ九重錦の原本の棟木の由来よりまるとる發端と本支との更けりと別の事ありてここころその發端の結びとあるがは則ちその如く直まゆの骨がをき讀めゆめをさそりとするは

○薦庇をちりて借て予口上のほつるを目錄の記しにす遠山麻子も當年で満尾初編ううては百灯余り長いもおまほ短ひをある八百屋四冊物よのまとの御評判と尾張大根小柳葎を二人ちらんで頭を提籠るんを少用を願ひます

天保甲午孟陽

柳亭種彦

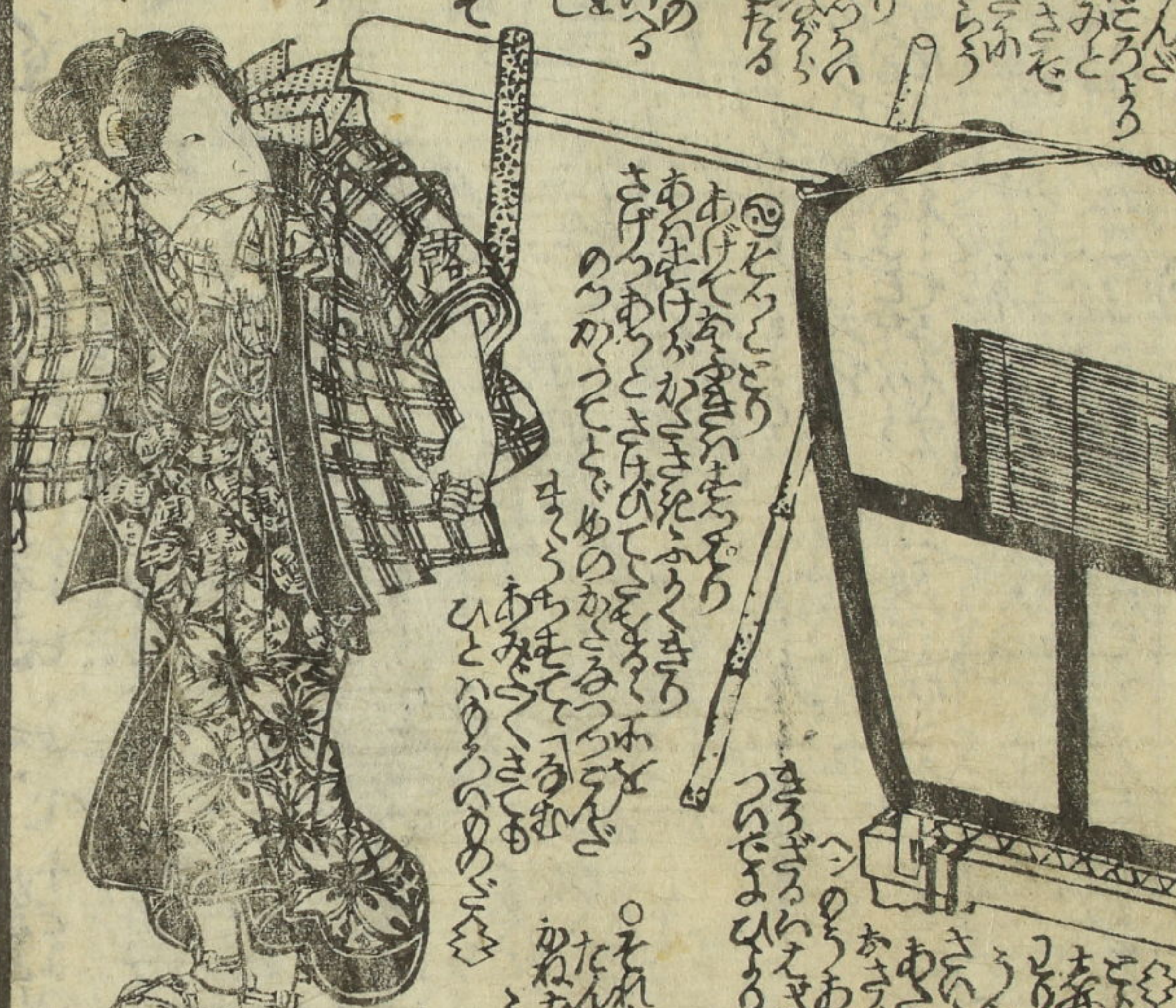


つぎおすんご
えんりきるころう
たふりぬみと
さいたるがまを
りあんさか
かひたであらう
まんごも
よそへなり
とるいせいの
ついでせざる
さうのちりたる
このうで
かまうのめ
くまうのめ
うけいじ
ままふ
ませやそ
このま
のりも
よんど
あらしか
あらし
日けり
よいとい
うちめさ
あまの
まるご



うまか
りまゆり
たふりぬみと
さいたるがまを
りあんさか
かひたであらう
まんごも
よそへなり
とるいせいの
ついでせざる
さうのちりたる
このうで
かまうのめ
くまうのめ
うけいじ
ままふ
ませやそ
このま
のりも
よんど
あらしか
あらし
日けり
よいとい
うちめさ
あまの
まるご

つぎおすんご
えんりきるころう
たふりぬみと
さいたるがまを
りあんさか
かひたであらう
まんごも
よそへなり
とるいせいの
ついでせざる
さうのちりたる
このうで
かまうのめ
くまうのめ
うけいじ
ままふ
ませやそ
このま
のりも
よんど
あらしか
あらし
日けり
よいとい
うちめさ
あまの
まるご



つぎおすんご
えんりきるころう
たふりぬみと
さいたるがまを
りあんさか
かひたであらう
まんごも
よそへなり
とるいせいの
ついでせざる
さうのちりたる
このうで
かまうのめ
くまうのめ
うけいじ
ままふ
ませやそ
このま
のりも
よんど
あらしか
あらし
日けり
よいとい
うちめさ
あまの
まるご





嫁
於千代
之像

は画由
上下きり
ひきめ
ころも
ふさ

下

仙果作
國安画





絹地金屏乃二重箔 一武

上
 下
 左
 右
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

柳亭校

千代見州

下

冊

仙果作 國安画

午の春

栄久堂

志んぼん

壽梓

